



# 10 後援会だより

October 2015 Vol. 28

## 「自主・自立」を目指してーアクティブラーニング手法ー

学長付部長 久保 良一

今日の社会は、「多様化」に代表されるように多様な営みがあります。その営みの中で、キャリアデザインや社会人基礎力のように一歩踏み出す力や考える力などの「力」が提唱されています。

大学教育は、「自主・自立」が目標であります。組織人として、社会人として個々の力を育成しなければなりません。その育成教育手法として「アクティブラーニング(脱受身化)」があります。これは、とりわけ珍しい手法ではありません。従来、教育手法として教育現場で無意識的に、また意識的に取り入れてきたものです。しかし少し前までの大学における授業は、教員が黒板と教科書を使用して一方的に話し、学生は黙ってノートに書き写す形式が主流でありました。そのような授業においては、学生が考える力を鍛える機会がありません。そこで、今、学生を受身にしない教育への変換が積極的に進められています。アクティブラーニングの主体は、学生であります。教員は助言指導を行う立場であり、学生が考えを発表したり、その考えについて全員で討議したりします。また、討議した内容を検証するために仮説を立て、調査しながら結論を導き出すなど、その内容によっていろいろな角度から学生が主体的に活動する取り組みを行います。たとえば、「ブレインストーミング」なども、文字通り脳に嵐を巻き起こす(創造性)手法であります。本学では全教員がさまざまなアクティブラーニングの手法を取り入れています。

自ら考え行動を起こすことは、社会人に求められる力の一つでもあります。しかし、核家族化や個家族化が進む中で、学生達の生育環境も多様化しています。積極的な学生、消極的な学生もあり、リーダーシップをとれる学生、人についてゆく学生、発言する学生、しない学生…。さまざまな学生がいますが、その一人ひとりに自ら行動できる力つまり生きる力を養成することが喫緊の課題として求められています。その課題を解決するために、全学的取り組みとしてアクティブラーニングを取り入れ、推進しています。



## 子育て支援セミナー

生涯学習推進委員長 花畑 明美

0・1歳児を対象とした「親子ふれあい音楽遊び」が宮崎市清武地域子育て支援センターを会場に、9月2日(水)・3日(木)で実施されました。2日間で親子合わせて延べ117名の参加がありました。本学の中武亮子教授と後藤祐子准教授が担当した親子ふれあい音遊びでは、子どもとの遊び方など学ぶことができたこと好評で、セミナーの回数を増やしてほしいとの要望が多く聞かれました。

その他、子育て・発達相談コーナーにもはじめての子育ての不安など相談がありました。

本学の保育科1年生をはじめ11名の学生がボランティアとして参加し、音楽付き絵本の読み聞かせを演じて好評でした。



## 秋の忍ヶ丘祭に向けて

秋の忍ヶ丘祭実行委員長 杉山 夏季

今年も秋の忍ヶ丘祭を10月24日(土)・25日(日)の2日間で行うこととなりました。今年のテーマは「繋がる笑顔・仲間・50年」です。50周年という節目の年に、学生や職員の方々、地域の方々笑顔や仲間が繋がるような秋の忍ヶ丘祭にしたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願い致します。また、感動や新たな絆が芽生えることも期待しています。



## 保育フェスティバルご案内 今年も2回開催します!

**第1回** 平成27年10月24日(土) 10:00~15:30 本学/交流センター (当日は、秋の忍ヶ丘祭も行っております。)

**第2回** 平成27年11月28日(土) 10:00~15:30 イオンモール宮崎/2F イオンホール

保育フェスティバルは、乳幼児とその保護者を対象にしたイベントです。0・1歳児の部屋、2歳以上児の部屋に分かれて、本学の学生が楽しい遊びコーナーを用意してお待ちしています。今年度は「親子ふれあい音楽遊び」「新聞紙で遊ぼう」「パニックアドベンチャー」などの遊びコーナーを用意しております。また、製作コーナーや「音楽ミニコンサート」も予定しています。入場無料で、参加の申し込みは不要です。皆様のご来場をお待ちいたしております。



## 入学前教育スクーリングご案内

平成27年12月12日(土) 9:00~12:20 本学/交流センター

本学では、インタビュー入試合格者、推薦入試合格者を対象に、入学前教育スクーリングを実施しています。スクーリングでは、入学予定者の入学に対する不安を軽減するためコミュニケーションゲームなどの交流活動や新聞記事要約課題のシェアリング、また学科別のプログラムが企画されています。毎年、在学生の学生チューターもプログラムを進行したり、活動に参加したりして活躍し、本学ならではの温かみのあるスクーリングとなっています。



## 次の50年を目指して

50歳は天命を知る年であると言う。本学は今年創立50周年を迎えた。天命、すなわち本学の果たすべき使命とは何か。

それは建学の精神「礼節・勤労」を根幹とした教育に邁進することである。他に敬意を表すこと、節度を守ること、一生懸命努力し、他に貢献すること。

このことこそ、社会人の基本であり、幸せな人生を送る基本である。地方創生の根本となる精神である。

本学50年の歴史の中で、私達はそれをより深く理解し、より具体的な指導として追求するようになってきた。教職員、学生がその下に結びつきを深め、協力し合うようになった。

挨拶、配慮・気遣い、賞賛、挑戦、努力、継続、自立、率先、切磋琢磨。それらは本学の人材育成の方針「学位授与の方針」として結実した。私は、そうした伝統の下にあることを幸せに感じ、誇りに思う。

10月12日は創立記念日である。本学は「礼節・勤労」の建学の精神に基づき、さらに次の50年の歴史を拓いていく決意を新たにしたい。

どうぞご協力、ご支援をお願いしたい。



宮崎学園短期大学 学長 宗和 太郎

# 学科・コース 学生の輝き

## ● 保育科

講師 久松尚美

今年も豊かな葉を茂らせる銀杏の樹が、刻々と染まり始めています。今はどっしりとした幹を構え、枝葉を広げるこの樹は学園のシンボルであり、学生や教職員を温かく見守ってくれている大切な存在です。これまでの卒業アルバムを手にとると、そこにはまだ小さな銀杏の樹も確認でき、本学の歴史の重みを感じることができます。また、どのページからも学友や教職員との充実した時間や、想い入れの強さが伝わってくるようです。保育科が今なお銀杏の樹のように枝葉を広げ、黄金色に輝き続けることができる根底には、本科を巣立っていかれた先輩方のご活躍や、温かく見守り支えてくださる多くの方々の姿があります。

保育科は資格・免許取得を目指し多くの実習に臨みますが、先輩方に支えていただきながら実習に臨む場面や、就職した

折にも熱心にご指導いただけるありがたい環境にあります。こうした想いや環境を次へと繋げながら、これからも銀杏の樹と共に輝き続けることを願っています。



## ● 専攻科(福祉専攻)

講師 戸敷早苗

専攻科(福祉専攻)は、保育士資格取得後さらに福祉について視野を広げ多くのことを学びたいという志の高い学生たちが進学してきます。学内での講義・演習をはじめ、年4回、障がい者・高齢者施設等での介護実習を通して、学生たちは多くの人と出会い、様々なニーズをもつ人々を対象とした介護実践ができる介護福祉士に育っています。入学して間もない時期での実習では緊張が強い学生もいますが、どの学生も自然と腰を低くし、相手と視線を合わせて話をするようになります。さまざまな場面を通して優しい気持ちになり、学生たちは2年間の保育の学びにプラスして、対人援助職として大切

なものに身に付けていくのです。

専攻科で1年間の学びが加わり、子どもから障がい者・高齢者へと支援の対象を広げ、将来、あらゆる人々を対象とした対人援助職になれるよう、医学的知識をはじめとする専門的知識・技術を身に付けていきます。本学で学んだ学生たちが、これから出会う多くの人々に「あなたに出会えてよかった」と言われるような専門職になれるよう、残された学生生活が一人ひとりの将来へと繋がる有意義な時間になることを期待しています。



## ● 現代ビジネス科

学科長 久保良一

本学は、今年で創立50年になります。この現代ビジネス科の歴史を紐解いてみますと、49年の歴史があります。保育科設置から1年後に「国文科」が設置され、「英語科」、「人間文化学科」そして「現代ビジネス科」と、時代を生き抜いてきた学科とも言えます。

現在の社会はグローバル化、ICT化、サービス経済化、少子高齢化そして急激な技術革新など、多様化するビジネス社会に対応できる人材の育成が喫緊の課題であります。現代ビジネス科の「現代」は、常に激動するグローバルスタンダードの中の「現代」でなければなりません。例えば、「グローバル化」一つをとっても、世界のグローバル化や地域のグローバル化を学ばなければなりません。そのためには、まず、地元に興味を持つ、地元を知る、地元の方々とのコミュニケーションを図るなど、地元住民の皆さんと若者の力が結集し、常にチャレンジする姿が地元になければなりません。そういう意味では、興味深い学びの世界がこの学科に広がっています。

現代ビジネス科はこのような高い実践力を持ち、果敢に挑戦し生き抜く力と有能な人材を育成することを目的としています。

学科は、2コースを設置しています。ビジネスコースでは、ビジネス社会で高い実践力を備えた人材の育成を目指しています。ビジネス社会が必要とする認知度の高い、高次の資格検定や司書資格及び社会福祉主事任用資格などが取得できるように、ブロック・ユニット型教育課程に組み込んでいます。さらに、産業構造、就業構造の変化の中で、第3次産業(サービス業)や6次産業で活躍できる人材を育成します。また、医

療事務・医療秘書コースでは、医療知識と事務能力を備え、医師や看護師などの医療スタッフに対して、その機能を十分に発揮できるようにサポートする人材を育成します。専門知識はもちろん、患者接遇も重要な能力の一つとして質の高いコミュニケーション能力や医療事務に必要な能力の養成に力を入れています。さらに、九州の短期大学で唯一の日本医師会認定を受けた医療秘書養成学校でもあります。

今後とも、きりと光る人材育成のために、「質の高い学科作り」「質の高い学生作り」を目指していきますので、後援会の皆様のご支援、ご協力を何とぞよろしくお願い致します。



## ● 専攻科(音楽療法)

准教授 後藤祐子

今年の8月は、音楽療法を学ぶ学生たちにとって、とても暑い夏となりました。その訳は、山口県にある「こども音楽センター」より中島恵子先生(Co-Musictherapy研究所代表)を本学にお迎えし、音楽療法関連2科目の集中講義がそれぞれ3日間、合計6日間連続で行われ大いに学ぶことができたからです。この授業では、音楽療法士となるための理論から実践までを学生自身が体験し、音楽の中で、音や音楽の可能性について徹底して学びました。学生たちの表情も日に日に変化し、感覚が磨かれていく様子がわかり、目を輝かせて必死に授業に取り組んでいました。音や音楽をどう感じるのか、また、音や音楽で表現し他者と一緒に創り上げていく体験を通して、対象者にとって音楽する意味を考え実践へと繋

げていくことができたようです。これから待っている音楽療法の現場で、この授業で学んだことが活かされると期待しています。

